

平成 22 年 12 月 16 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 テ ラ プ ロ ー プ  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 越 丸 茂  
 (コード番号：6627 東証マザーズ)  
 問 合 せ 先 執 行 役 員 C F O 船 谷 肇  
 ( TEL. 045-476-1011)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成 22 年 12 月 16 日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社グループの当期の業績予想は、下記のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

記

【通期・連結】

(単位：百万円・%)

項 目	決算期	平成 23 年 3 月期 (計画)		平成 22 年 3 月期 (実績)		平成 23 年 3 月期 第 2 四半期累計 期間 (実績)	
		構成比	前期比	構成比	構成比		
売 上 高	22,064	100.0	123.7	17,836	100.0	10,224	100.0
営 業 利 益	5,891	26.7	203.7	2,892	16.2	2,414	23.6
経 常 利 益	5,578	25.3	215.8	2,585	14.5	2,259	22.1
当 期 ( 四 半 期 ) 純 利 益	3,970	18.0	177.9	2,231	12.5	1,601	15.7
1 株 当 た り 当 期 ( 四 半 期 ) 純 利 益	487 円 17 銭		2,905 円 32 銭 (290 円 53 銭)		208 円 47 銭		

【通期・単体】

(単位：百万円・%)

項 目	決算期	平成 23 年 3 月期 (計画)		平成 22 年 3 月期 (実績)		平成 23 年 3 月期 第 2 四半期累計 期間 (実績)	
		構成比	前期比	構成比	構成比		
売 上 高	18,413	100.0	116.3	15,835	100.0	8,562	100.0
営 業 利 益	4,610	25.0	192.8	2,391	15.1	1,875	21.9
経 常 利 益	4,294	23.3	206.2	2,082	13.1	1,722	20.1
当 期 ( 四 半 期 ) 純 利 益	3,446	18.7	167.0	2,063	13.0	1,417	16.5
1 株 当 た り 当 期 ( 四 半 期 ) 純 利 益	422 円 87 銭		2,686 円 88 銭 (268 円 69 銭)		184 円 59 銭		
1 株 当 た り 配 当 金	—		—		—		

- (注) 1. 平成 23 年 3 月期 (計画) の 1 株当たり当期純利益は公募株式数 (1,600,000 株) を含めた予定期中平均発行済株式数 8,149,041 株により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分 (最大 480,000 株) は考慮していません。
2. 平成 22 年 5 月 28 日付けをもって、1:10 の株式分割を行っております。そこで、平成 22 年 3 月期 (実績) の 1 株当たり当期純利益は、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を ( ) 内に記載しております。

以 上



## 平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年12月16日

上場会社名 株式会社テラプローブ

上場取引所 東京証券取引所マザーズ

コード番号 6627

URL <http://www.teraprobe.com/>

代表者(役職名) 代表取締役社長(氏名) 越丸 茂

問合せ先責任者(役職名) 執行役員CFO(氏名) 船谷 肇

(TEL)045(476)1011

四半期報告書提出予定日 -

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日~平成22年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
23年3月期第2四半期	10,224 -	2,414 -	2,259 -	1,601 -
22年3月期第2四半期	- -	- -	- -	- -

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	208.47	-
22年3月期第2四半期	-	-

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	34,772	19,210	51.2	2,319.52
22年3月期	32,739	17,661	49.9	21,278.86

(参考)自己資本

23年3月期第2四半期 17,813百万円

22年3月期 16,342百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
23年3月期	-	0.00	-	-	-
23年3月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 : 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
通期	22,064 -	5,891 -	5,578 -	3,970 -	487.17

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

23年3月期2Q	7,680,000株	22年3月期	768,000株
23年3月期2Q	—株	22年3月期	—株
23年3月期2Q	7,680,000株	22年3月期2Q	768,000株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 当社は平成22年5月28日付で当社普通株式1株につき10株の株式分割を実施し、発行済株式数が6,912,000株増加し、7,680,000株となっております。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績に関する定性的情報 .....	2
2. 財政状態に関する定性的情報 .....	2
3. 業績予想に関する定性的情報 .....	3
4. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
5. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(第2四半期連結累計期間) .....	6
(第2四半期連結会計期間) .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策や猛暑による一部家電製品の販売好調など明るい話題もあったものの、円高による輸出企業の業績低迷や、厳しい雇用環境の継続など、引き続き先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社事業に影響の大きい国内半導体業界においては、来年のテレビ放送の地上波完全デジタル化を控え、エコポイントなどの販売支援策の影響もあり、薄型テレビの販売は好調に推移し、また、スマートフォンも好調な売れ行きを示すなど、半導体を使用する最終商品の生産は比較的好調に推移し、それに伴い半導体の生産も堅調に推移いたしました。

このような状況のもと当社グループは、メモリ事業の主要な受託品であるDRAMが堅調に推移したことに加え、システムLSI事業においては新規顧客の獲得や新規受託品の測定を開始するなど概ね順調に売上を伸ばしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は10,224百万円、営業利益2,414百万円、経常利益2,259百万円、四半期純利益1,601百万円となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。なお、セグメント別の業績には連結調整、為替換算レート調整、セグメント別に配分されない一般管理費を含んでおりません。

### (1) メモリ事業

メモリ事業においては、テスト負荷の高い製品の受託割合が徐々に高まるなど、保有装置の稼働状況は高い状況を維持することが出来ました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるメモリ事業の売上高は9,361百万円、セグメント損益は3,355百万円の利益となりました。

### (2) システムLSI事業

システムLSI事業においては、主要顧客からの受注が安定しない中、新規顧客や従来とは異なる分野の製品など、テスト受託製品の多様化に対応するため、設備投資により保有装置の種類を拡大し、体制の整備を行いました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるシステムLSI事業の売上高は867百万円、セグメント損益は437百万円の損失となりました。

## 2. 財政状態に関する定性的情報

### (1) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産額は34,772百万円となり、前連結会計年度末と比較して2,032百万円の増加となりました。これは、売上高の増加を反映して受取手形及び売掛金が前連結会計年度末比で726百万円増加したこと、並びに顧客からのテスト受託増に対応する能力増強のための設備の取得及び連結子会社における新社屋用の建物及び土地の取得により固定資産が前連結会計年度末比で1,508百万円増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末比で482百万円の増加となりました。これは、リース債務が返済により前連結会計年度末比で2,437百万円減少しましたが、設備投資により設備未払金が前連結会計年度末比で1,964百万円増加したこと及び連結子会社において新社屋用の建物及び土地の取得費用に充当するための借入れを実行したことにより短期借入金が前連結会計年度末比で950百万円増加したことによるものです。

純資産は、四半期純利益の計上により、前連結会計年度末比で1,549百万円の増加となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローで収入を4,363百万円確保したものの、投資活動によるキャッシュ・フローの支出が2,198百万円、及び財務活動によるキャッシュ・フローの支出が2,232百万円となったことから、当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物の残高は2,713百万円となり前連結会計年度末比107百万円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、4,363百万円の収入となりました。これは主に、当第2四半期連結累計期間での利益計上及び減価償却費により5,426百万円の資金の増加となりましたが、売上債権の増加及びその他の流動負債の減少により1,094百万円の資金の減少となったことによるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,198百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得により2,722百万円の支出が生じたことによるものです。また、低稼働となった資産の売却によって465百万円の収入がありました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,232百万円の支出となりました。これは主に、連結子会社において新社屋用の建物及び土地の取得費用に充当するための短期借入れ、並びにセール・アンド・リースバック取引により1,453百万円の収入となりましたが、リース債務の返済により3,536百万円の支出が生じたことによるものです。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

当事業年度下期におけるわが国経済は、急速に進行した円高の影響が続くことやエコポイントの減額やエコカー補助金の終了に伴う需要減により、厳しい状況で推移するものと予想されます。

上記状況に加え、当社グループの属する半導体業界もPCの需要減に伴うDRAM価格の下落や最大の需要期であるクリスマス商戦の終了に伴う需要減など弱含みで推移するものと予想されます。

以上のように厳しい環境ではありますが、当社グループは、既存顧客からのテスト受託を維持することに加え、新規顧客開拓を継続し、新規製品の受託による売上増を目指しております。また、当社グループのテスト受託の主要製品であるDRAM分野においては、テスト負荷が高い高機能品の割合が増加し、稼働率および売上高に寄与する見通しです。

これらの結果、当事業年度の業績予想は、売上高22,064百万円、営業利益5,891百万円、経常利益5,578百万円、当期純利益3,970百万円となっております。

### 4. その他の情報

#### (1) 重要な子会社の異動の概要

当第2四半期連結会計期間において、重要な子会社の異動はありません。

#### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

#### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は318千円減少し、税金等調整前四半期純利益は2,772千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は12,348千円でありませ

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,613,084	2,820,690
受取手形及び売掛金	3,530,556	2,804,096
有価証券	1,100,000	—
製品	10,154	11,339
仕掛品	97,960	133,810
貯蔵品	22,018	22,012
その他	246,547	304,248
流動資産合計	6,620,322	6,096,198
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	22,092,925	21,025,318
その他(純額)	5,335,698	3,479,471
有形固定資産合計	27,428,623	24,504,790
無形固定資産	583,076	784,645
投資その他の資産	140,151	1,354,206
固定資産合計	28,151,851	26,643,642
資産合計	34,772,174	32,739,840
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	498,724	413,220
短期借入金	950,441	—
1年内返済予定の長期借入金	300,000	300,000
リース債務	5,557,204	6,389,236
未払法人税等	526,865	177,816
引当金	254,812	241,880
その他	3,087,941	1,440,721
流動負債合計	11,175,990	8,962,875
固定負債		
長期借入金	450,000	600,000
リース債務	3,688,905	5,293,950
引当金	121,050	105,671
その他	125,429	116,287
固定負債合計	4,385,386	6,115,909
負債合計	15,561,376	15,078,785



(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,600,000	9,600,000
資本剰余金	9,156,955	9,156,955
利益剰余金	△578,295	△2,179,347
株主資本合計	18,178,659	16,577,607
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△364,781	△235,446
評価・換算差額等合計	△364,781	△235,446
少数株主持分	1,396,919	1,318,893
純資産合計	19,210,797	17,661,055
負債純資産合計	34,772,174	32,739,840

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	10,224,136
売上原価	7,004,358
売上総利益	3,219,778
販売費及び一般管理費	805,705
営業利益	2,414,073
営業外収益	
受取利息	1,406
設備賃貸料	21,598
受取手数料	9,114
その他	2,773
営業外収益合計	34,892
営業外費用	
支払利息	112,730
休止固定資産減価償却費	36,285
その他	40,526
営業外費用合計	189,543
経常利益	2,259,422
特別利益	
固定資産売却益	112,999
特別利益合計	112,999
特別損失	
固定資産売却損	57,271
固定資産除却損	5,959
ノウハウライセンス契約解約損	38,095
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,453
特別損失合計	103,779
税金等調整前四半期純利益	2,268,642
法人税等	465,301
少数株主損益調整前四半期純利益	1,803,340
少数株主利益	202,289
四半期純利益	1,601,051

(第2四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	5,249,695
売上原価	3,556,622
売上総利益	1,693,073
販売費及び一般管理費	407,913
営業利益	1,285,159
営業外収益	
受取利息	649
設備賃貸料	12,999
その他	894
営業外収益合計	14,543
営業外費用	
支払利息	54,258
休止固定資産減価償却費	8,079
その他	15,234
営業外費用合計	77,572
経常利益	1,222,131
特別利益	
固定資産売却益	8,792
特別利益合計	8,792
特別損失	
固定資産売却損	57,271
固定資産除却損	4,914
ノウハウライセンス契約解約損	38,095
特別損失合計	100,281
税金等調整前四半期純利益	1,130,642
法人税等	237,144
少数株主損益調整前四半期純利益	893,498
少数株主利益	96,892
四半期純利益	796,605

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成22年4月1日  
至 平成22年9月30日)

<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	2,268,642
減価償却費	3,157,748
受取利息	△1,406
支払利息	112,730
固定資産除売却損益 (△は益)	△49,769
ノウハウライセンス契約解約損	38,095
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,453
設備賃貸料	△21,598
売上債権の増減額 (△は増加)	△792,811
たな卸資産の増減額 (△は増加)	33,497
仕入債務の増減額 (△は減少)	86,747
引当金の増減額 (△は減少)	36,802
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	4,252
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△302,104
その他	△10,777
<b>小計</b>	<b>4,562,503</b>
利息の受取額	4,974
法人税等の還付額	8,940
利息の支払額	△112,730
法人税等の支払額	△100,266
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,363,420</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△2,722,593
有形固定資産の売却による収入	465,200
無形固定資産の取得による支出	△17,046
設備賃貸料の受取額	81,604
その他	△5,193
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△2,198,029</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入れによる収入	991,302
長期借入金の返済による支出	△150,000
リース債務の返済による支出	△3,536,638
セール・アンド・リースバック取引による収入	462,560
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△2,232,775</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△40,221
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>△107,606</b>
現金及び現金同等物の期首残高	2,820,690
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>2,713,084</b>

- (4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。
  
- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。